

資料3 学ぶ力を育てるための授業の基本的な指導過程に基づく授業展開のモデル

段階	学習の流れ	学習形態と児童の意識	手だて(指導、援助)	手だての留意点	研究重点年度
課題をつかむ	1. 課題把握	問題場面の設定(全体) おもしろそうだ。へんだな。なぜだ。やってみよう。 個の課題意識 いろいろなことがあるなあ。	・矛盾や対比的事象の提示 ・不足のある事象の提示 ・既存の知識、経験を超えた事象 ・資料の提示 ・操作、体験	○視覚化 ○体験化 ○具体物や半具体物 ○提示のタイミング ○提示期の発問	昭和61年度(第1年次)
	見通しをもつ	2. 解決の計画	学習課題の設定(全体) こんなことを知りたい。こんな点がかかるようになりたい。このことができるようになりたい。 個の見通し こうじゃないかなあ。 この方法で解決できそうだな。 この方法で考えればたぶん、こうなるはずだ。	・焦点化する発問 ・直感による見通しをもたせる発問 ・方法的見通しをもたせる発問	
解決する		3. 解決への活動	解決の見通しの吟味(全体) 個の解決 自分の考えがまとまった。 友だちはどう考えたのだろう。 そんな考えもあるのか。 新しいことがわかったぞ。	・学習形態 ・作業的活動 書く。 読む。 操作する。 作業する。 ・意図的計画的机間巡視 座席表の活用	○作業的活動と学習形態の組み合わせ ○学習状況の把握と個に応じた指導 ○小集団学習の意図的構成 ○事前の学力の把握と意図的指名
	まとめ	4. 新しい学習内容の獲得	解決(全体) いろいろな考え方があなあ。 新しいことがわかったぞ。 学習内容の定着(全体) やっぱりそうだ。 なるほどなあ。 個のまとめ わかってよかった。 できてよかった。 次時への方向(全体) 次の時間が楽しみです。	・話し合い活動 板書 ・事象、資料、適用問題の提示 ・板書 ・認め合い、賞賛 ・発表 ・記録	○板書による振り返り ○適用問題の構成 ○ノートの記録の仕方手順 ワークシートの活用

全体での学習活動 (全体学習の場)

個の学習活動 (一人学習の場)

一人読みを生かして読み深めた例
六年(石うすの歌) 課題「泣いて
いた石うすが歌い出したのはどうして
か」

③「解決する」段階
学習意欲を持続し、解決しようとする意志を培う。一人学習(自力解決)の場で座席表を活用し、個別指導をする。その後集団学習で練る。
粘り強く解決する訓練
○自分の考えを図、言葉で確かめる。
○自分の考えを友達と比べる。
○自分の考えを見直す。(消す。たす。みとめる)

自分の見通しに従って学習した例
六年(対称な形) 課題「折ったり重ねたりしないで、線対称な形を見つけるには、どうするか」
ます目を使う。はかる。折った時に重なり合うところの辺の長さや角の大きさを測って同じかどうかをみる。――印をノートに記述して、自己解決に入る。

直観力を働かせたり既習事項を生かしたりして、結果を見通し、解決の方法を見出して記録する。
見通しをもつ訓練
○これまでの学習の中で似たことと同じことを思い出す。
○課題の答えを考える。
○線を引く。印をつけて考える。
○言葉で書いたり、図・表に表して考える。